










	特に好調 ($30 \leq DI$)	好 調 ($15 \leq DI < 30$)	まあまあ ($0 \leq DI < 15$)	やや不振 ($\Delta 15 \geq DI > 0$)	不 振 ($\Delta 30 \geq DI > \Delta 15$)	きわめて不振 ($DI > \Delta 30$)
部 会	7～9月 (実績)	10～12月 (見通し)	概 況			
寝 装 リビング			景況悪い・動きが解らない・相変わらず先行き不透明とのコメントあり。売上金額としては昨対比 3～5 割減の事業所もある様子。今後、海外への輸出のニーズを期待する声が寄せられる一方、需要の停滞やメーカーの進出による競争の激化、製品ニーズの変化への対応が今後の課題として挙げられている。			
織 維 ファッション			婦人服製造業からは売れ筋が伸びず、型数が必要となっている。又、閑散期の製造原価は抑える事が出来たが、これからは外注業者の事も考えなければならない。個人消費の手控え、節約ムードが横ばいとなっており、店頭での商品消化が鍵となるとのコメントあり。一般的に動きが悪い中、ミドルゲージの丈が長い商品が中心になる模様。昨年度は若干の見通しがとれたが、本年はまったく不明との声が寄せられた。			
工 業			前期に引続き、景況は悪い・底バイとの回答が多数を占めている。原材料価格の上昇から目が離せない状態である。車関係が動きつつあるとの声あり。昨対比、売上は 100%を超えている事業所もあるようだが、利益は前年を割っているところもあり、薄利多売の状態が今後も続く見込みである。			
建 設			建築業からは、取引条件の悪化・請負単価の低下・上昇難が経営上の問題点として寄せられた。熟練技術者の確保難や民間需要の停滞も叫ばれる中、景況が良くなる実感がない。政府の財政動向に将来がみえないため打つ手がない、底打ちの兆しが見えないとのコメントあり。業界の衰退で閉鎖していく同業者が増加するのではないかと、生き残ることが大きな節目となるとの声あり。			
運輸倉庫			海運業からは、燃料油の高騰が始まり、先行が依然として不透明である。中古車の輸出台数も前年比大幅にダウンしているようである。運輸倉庫業からは荷動き低迷が続いており、更なる雇用調整が必要であるとのコメントあり。民主党政権に期待するも、高速料金無料化、暫定税率廃止等の他への影響を懸念する声が寄せられた。			
金融理財			不動産業からは、消費低迷のせいか、動きが鈍く、低価格化してきているとのコメントあり。又、土業からは、報酬額のダンピング防止をすすめている。年末に向けて少し厳しくなる。人の転換。頭の転換との声が寄せられている。又、現場に身を置きやれば出来るとのコメントあり。生保業からは昨年のリーマンショックが落ち着き前年度のような売上の落ち込みは感じられないとの声あり。			
一般商業			小売業からは、大型連休で高速道路料金値下げによる郊外への外出客増による買い物客減少で苦戦の模様。又、価格競争が激しく、売上を確保するためセールを実施する店舗が増えたためセール価格が当たり前となり、集客には繋がらなくなってきた様子である。大型スーパーからは、PB商品は好調なもの低価格のため売上額は芳しくない様子。			
サービス業			政権交代で変革に期待する声が寄せられている一方、個人消費は依然として厳しい様子。零細(個人)経営はこの先淘汰されるであろうとのコメントあり。飲食業からは、底辺を推移。消費の上向きはいつ頃になるのやらとの声あり。又、先が見えない状態だが、日々切磋琢磨して逆風を追い風に変えられるようにがんばっているとの前向きなコメントも寄せられた。			